

空間活用事例

Cafe&Living UCHIDA

サードプレイス

背景:「短時間から」「気軽に」利用できるカフェに託児所を備えた子育てのサードプレイス

リノベーション内容:「子育てのサードプレイス」をコンセプトに生まれた託児所併設型カフェ。利用者の多様なライフスタイルに合わせ、飲食時の託児所利用や短時間預かりなど、子育てに選択肢を提案する柔軟なサービスを展開。

効果:カフェと託児スペースは大きな窓ガラスで仕切られ、いつでも子どもたちを見守ることができる。保育園と自宅の中間のような程よい空間は、子育て世代を応援する新しい拠り所になっている。



岐阜ホール

アンテナショップ

背景: イベントを軸とした新型アンテナショップ岐阜の新たな価値を発信

リノベーション内容: 岐阜県の魅力を東京から発信するカフェ兼アンテナショップとして2019年にオープン。地元企業を中心にさまざまな顧客の広告やパッケージ、ブランディングを数多く手がけてきたデザイン会社を運営。

効果: 参加型ワークショップやトークイベントも定期的に行い、集まった人と共に「岐阜を編集」し、新たな岐阜の価値を見出す場を提供している。



STYLE-B

八百屋 + 自転車 + コインランドリー

背景:「STYLE-B」は、東京急行電鉄株式会社が新たに開業する池上線五反田駅～大崎広小路駅間の「高架下」の山手通り沿いに位置する、新しいライフスタイル提案型サイクルショップである。

効果:サイクルショップをメインに、カフェコーナーや八百屋、コインランドリーを併設した複合施設。生活に密着した施設を合わせることで、気軽に入れる雰囲気を実現した。暗いイメージであった高架下を明るくし、地域の賑わい創出に成功した。



真鶴出版 2号店

情報発信施設 + 宿泊

背景: 神奈川県先の西の端っ、7300人が住まう真鶴半島。その付け根あたり、真鶴駅からほど近い場所の「背戸道(せとみち)」と呼ばれる細い生活道路に面する空き家を、夫婦ふたりが「泊まれる出版社」をコンセプトに、真鶴の情報を発信する出版事務所兼、物販や宿泊機能を持つ施設として運営。真鶴の生活風景に馴染む佇まいを迫及するため、建築家、地元職人とチームになり、議論を交わしながら改修にあたった。

効果: 「地域の情報を発信し、その情報をキャッチして訪れた人を受け入れる泊まれる出版社」がコンセプトである真鶴出版をきっかけに16世帯40人が移住するなど、真鶴に興味を持つ人と地元住民を繋げるハブとしても機能している。



静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・る

こども体験施設

背景: 静岡県にある仕事やものづくりの体験を通じて子どもたちの創造性を育む体験施設。子どもたちが店長として店づくり・商品開発などを体験し、仕事で得た疑似通貨で買物を楽しむ「こどもバザール」等のプログラムが用意されている。

効果: 2018年度の年間利用者数は10万人を超え、コアなりピターも多数。「第7回キッズデザイン賞」優秀賞、「DSA空間デザイン賞2013」受賞。



COMMON-SHIP 橋通り

飲食店+シェアキッチン+ステージ

背景：宮城にある、飲食店、シェアキッチン、ステージ、部室が一体となった、まちのインキュベーション施設。新しい事業に取り組みたい人や、趣味の活動をするための活動の場。地域の様々な人に利用してもらえるよう、屋外のスペースでは各種イベントも開催。東日本大震災によって“まち”に関わるようになった人たちが、将来も石巻に暮らし続けることができるよう、新しいコミュニティが生まれる場を目指した。



水の広場公園

ワークショップ・体験・展示

背景 : 「水の広場公園」は、東京都江東区に位置する水処理施設である東京都水道局の水再生センターに隣接する公園です。東京湾に面した立地にあり、元々は水処理施設としての機能が中心でしたが、都市部における住民の憩いの場として整備されました。

付加機能 : この公園内には、東京都水道局が管理する「水再生展示館」が設置されている。展示館では、水処理の仕組みや環境保護について学べる展示が行われており、子供から大人まで水の大切さや環境問題について理解を深めることができる。また、定期的にワークショップや水質調査体験など、参加型の教育イベントが開催され、地域住民が日常的に利用できる教育施設として機能している。

効果 : 「水の広場公園」と「水再生展示館」の併設により、地域住民が水処理施設について学び、子供たちが自然や環境問題に触れる場が提供されている。都市部の貴重な緑地として、家族連れや子供たちの憩いの場となっており、地域社会の活性化に貢献している。公園と文化施設を併設することで、都市住民の生活の質を向上させると同時に、環境教育の拠点としても重要な役割を果たしている。



皇居外苑

ツアー・散歩道

背景 : 皇居は日本の天皇の居住地であり、通常は極めて限られた場所しか一般には公開されない場である。

付加機能 : 皇居外苑には、一般市民が自由に散策できる庭園や公園が整備されている。また、特定の日には皇居の内部の一部が一般公開され、参観ツアーが行われている。

効果 : 東京の中心に位置する大規模な緑地として、都市住民に憩いの場を提供し、観光客にとっても人気の訪問地となり、地域の文化的価値を高める役割も果たしている。



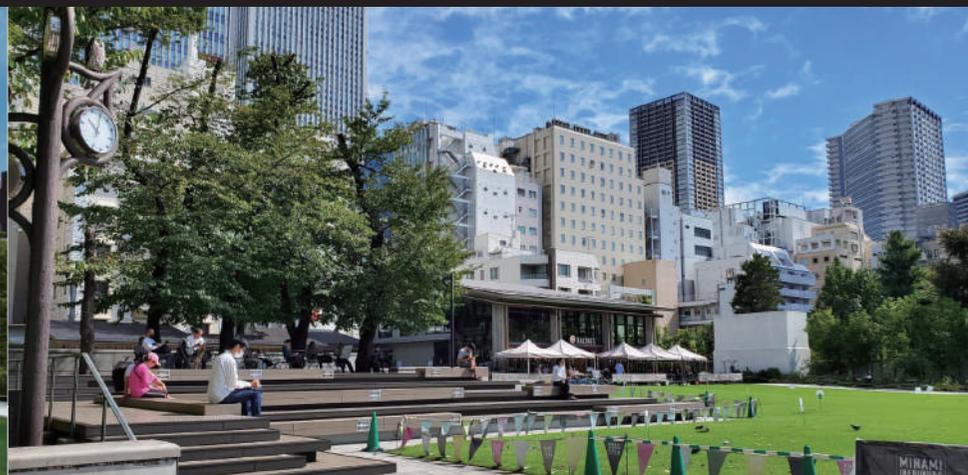
南池袋公園

文化的機能

背景 : 南池袋公園は、東京都豊島区の池袋エリアに位置する都市公園。池袋駅から徒歩圏内にあり、元々は広場としての機能が中心でしたが、2016年にリニューアルされ、Park-PFI（公園整備のための民間活用推進）事業の一環として再開発が行われた。

付加機能 : 南池袋公園には、リニューアル後に文化的な施設や機能が多数導入されました。特に、公園内に併設された「池袋西武・ラシーヌ・ファーム・トゥ・パーク」というカフェレストランでは、地域の食材を使用した料理が提供され、食文化を発信する拠点となっている。

効果 : 南池袋公園の再開発により、公園が地域住民や訪問者にとって日常的に利用できる文化的・レクリエーションの場として機能するようになった。特に、文化施設と子供の遊び場を融合させたことで、家族連れや若年層の利用が促進され、池袋エリア全体の魅力向上に寄与しています。



オスロ オペラハウス

ランドマーク・ランドスケープ・劇場

背景 : 元々工業地帯であった場所に建設され、劇場としての機能を果たすだけでなく、屋根が傾斜しており、一般市民が自由に歩いたり、景色を楽しんだりできる開かれたスペースとしても利用されている。

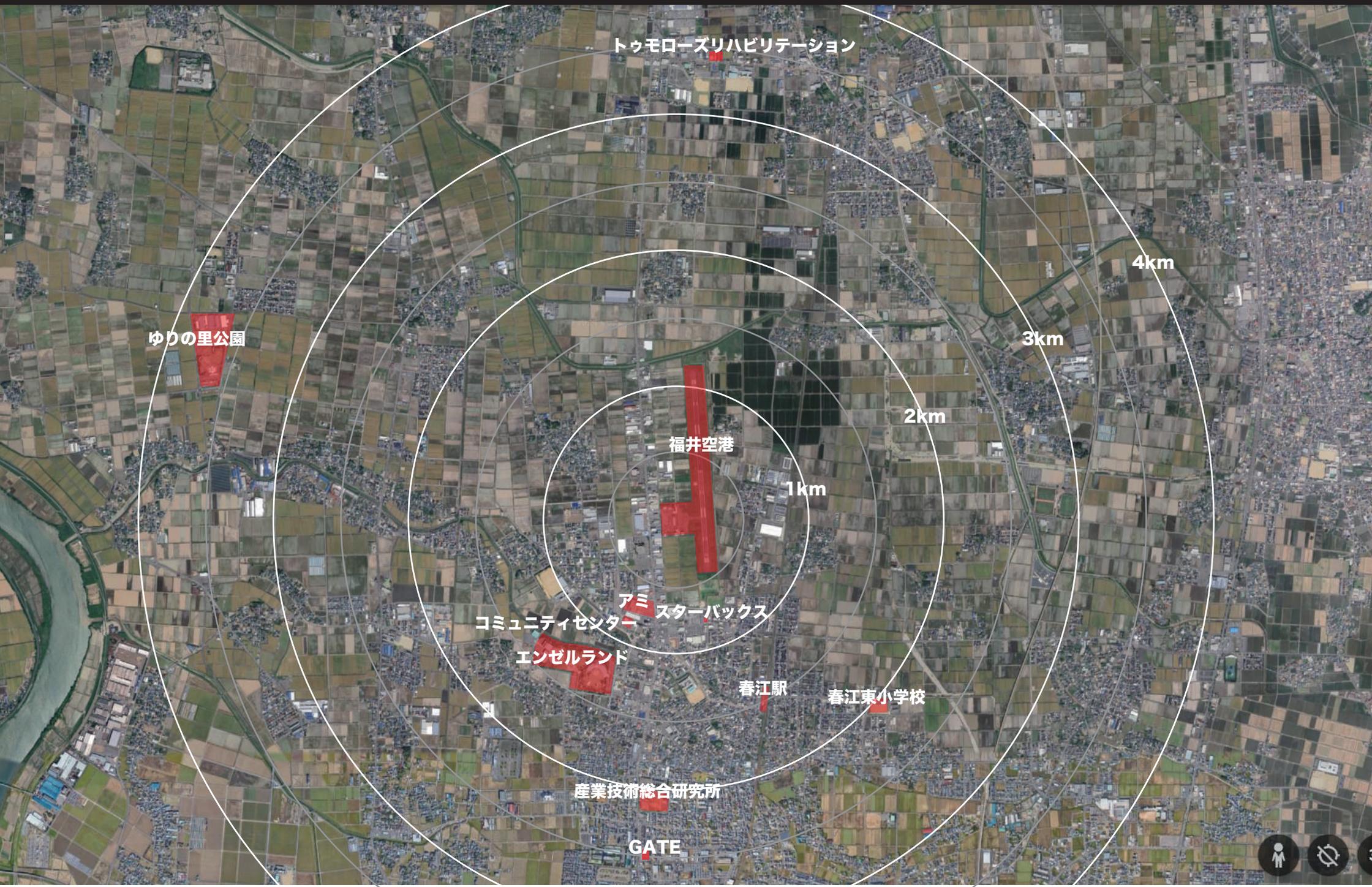
都市課題 : オスロにはいくつかの重要な課題があり、文化的インフラの不足が挙げられ、オスロにはオペラやバレエのような本格的な舞台芸術を楽しむための専用施設がなく、ノルウェー国内外からの芸術家を迎える場としての能力が限られていた。

効果 : オペラハウスは、オスロ市民にとって新たな誇りとなるランドマークとなった。市民や観光客が自由に屋根に登り、フィヨルドや都市の景色を楽しめる開放的な空間は、都市のアイデンティティを強化し、オスロが「人々が集い、文化に触れる都市」であることを象徴



空港周辺状況

福井空港周辺



トゥモロースリハビリテーション

ゆりの里公園

4km

3km

2km

福井空港

1km

アミスターボックス

コミュニティセンター

エンゼルランド

春江駅

春江東小学校

産業技術総合研究所

GATE



福井空港周辺

